



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～



VIVA 25周年記念誌発刊！！

当研究会評議員

武蔵野赤十字病院 原 純也 [管理栄養士]

梅雨のジメジメした日が続きますね。私はこの時期が一番の苦手です。とても不精なので傘を持ち歩くことが嫌いなんです。武蔵野赤十字病院にお世話になり始めて約5か月が経とうとしていますが、院内のナチュラルローソンで買ったビニール傘がなんと5本にもなりました。（以前は、車通勤でドア to ドアな生活をしていましたので、こんなことはありませんでした（泣）。）

さて、そんな小雨降る6月9日に第51回総会&例会が行われ、その後、発刊記念祝賀会がありました。私も気がついたら25周年記念誌編集委員になっておりましたので（笑）、このパーティーに参加させていただきました。記念誌発刊までの準備期間は1年半ありましたが、この編集はかなりタイトなものでした。今で



は記憶媒体がしっかりとあるため、ここ最近のデータを集めることにはさほどの苦勞はしませんでした。やはり25年前のことから探るとなると残っているものも少なかったり、残っているデータも紙媒体であったりと様々でした。いくつもの代表世話人をされている先生方には色々な編集委員から、同じような内容のメールが何十通と行き、メ切りが迫るとまた何人もの編集委員から催促メールが行ったことだと思います。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

記念誌はまず貴田岡理事長から始まります。1980年代前半に症例検討会に自然発生的にいくつか立ち上がり任意団体とし発足したのが始まりだったようです。次に植木副理事長のごあいさつでは世話人として口説かれたのが、国分寺駅近くの古ぼけたビルの2階にある居酒屋だそうです。宮川副理事長のごあいさつでは第2回目から参加したと記されております。そこから、故近藤甲斐夫先生、伊藤眞一先生の「25周年に寄せて」へつながっていきます。祝賀会でも伊藤先生がお話していたことですが、各医師会の近くまで出向き、糖尿病の知識の啓蒙・医療連携の礎を構築して、まるで旅役者のようだったと当時を振り返っておられます。記念誌の編集はかなりハードでしたが西東京の歴史を知る良い機会にもなりました。業績集（吉元委員長、薬剤師の小林さんがご担当でした）は、かなりのボリュームで見ごたえ十分です。改めて素晴らしい研究会の一員であることを誇りに思いました。それから、我々の大先輩である方々の座談会もとても素晴らしいお話です。まだチーム医療が認知されていない時代に患者さんに教えるのではなく話し合う姿勢が重要だという信念で活動してくださっていたからこそ、今日の我々がチーム医療の一翼を担うことができるようになったのだと非常に感動いたしました。

最後に今度は50周年記念誌を作成する予定だそうです。そこでお知らせが一つ。編集委員長は多摩総合医療センター「佐藤文紀先生」に決まりました（祝賀会にて強引に決定）。佐藤先生の下、是非とも25年後の編集委員に立候補したい方は事務局へご連絡ください。私自身はその時65歳で、もしかすると座談会に参加しているのかな？



左から、次回委員長の佐藤先生、吉元委員長



西東京糖尿病療養指導士（LCDE）は、更新のために5年間に50単位を取得する必要があります。当研究会会員は、会報「Mano a Mano」の問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**（5年間で10単位）を獲得できるようになりました。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導に役立ててください。（「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出しております。）



経口血糖降下薬について、誤ったのを一つ選んで下さい。（答え、解説は3ページにあります。）

- αグルコシダーゼ阻害薬は、二糖類分解酵素の活性を阻害して、食後の高血糖を抑制する。
- チアゾリジン薬は、二次無効を改善して血糖を降下させる。
- 速効型インスリン分泌促進薬は、スルホニル尿素薬と同じ作用点に働く。
- ビッグアナイド薬は、インスリン抵抗性を改善する。
- スルホニル尿素薬は、インスリン分泌能が残存している場合に適応となる。

研究会等の実施報告



第9回 南多摩糖尿病教育研究会

平成24年4月12日（木）日本医科大学多摩永山病院にて開催されました。

当研究会評議員 多摩センタークリニックみらい 藤井 仁美

第9回南多摩糖尿病教育研究会（「糖尿病腎症」4/12 於日本医大多摩永山病院会議室）が開催されました。今回は30名の参加となり、栄養士、看護師のみならず地域薬局薬剤師、福祉関係者など地域の集まりらしくなってきました。

栄養士より「糖尿病腎症の治療法～透析を減らすために何ができるか～」をテーマにご講演いただき、医師の立場より、腎症の定義や実症例など力の入った講義がありました。グループ討論も腎症患者への関わり方や、食事の指導方法などにぎやかな論議が続きました。最後に私、藤井よりミニレクチュアをし、参加者の好奇心も満足できたのではと思います。

次回の10回記念は、9月6日（木）19:10～21:10 日本医科大学多摩永山病院 会議室にて、テーマは「糖尿病網膜症」です。



第33回 糖尿病スタッフ教育研究会

平成24年4月21日（土）～22日（日）上郷・森の家にて開催されました。

当研究会理事 HECサイエンスクリニック 調 進一郎



「患者さんから学ぶ」を基本方針に、患者さんのスピーチを特色とした研究会。今回の参加者は81名であった。

講演1：1型DM患者（50代 男性）は、10回/日程度のSMBGを行いHbA1cを5%前後に長期間保っている。積極的に血糖controlを行いながら人生を謳歌するには家族の協力が大切である事など語ってくれた。

講演2：2型DM患者（60代 男性）は、発症時の苦労や将来への不安を語ってくれた。DMに立ち向かう自身の姿が、生徒たちへの指導にも生きていることを語ってくれた。

夕食後は交流会。情報交換・親交を深めあった。（自由解散だが最終解散はAM2時）

早朝ウォーキング：健康運動指導士と共に近くを散策。（私は二日酔いで欠席のため詳細不明）

特別講演：「糖尿病劇場」。独居のさみしさから、血糖悪化し入退院を繰り返す高齢者が事例。最後に朝比奈先生が患者心理を考えた指導の講演を行った。

◆◆連載コラム ～テーマ「認知症」～（全3回）◆◆



「認知症」第1回



～認知症早期発見とその対応～

東京医科大学八王子医療センター 植木 彬夫

調子はどうですか？「いいよ、いつもと同じだよ」。タバは何食べたの？「たいした物食べてないよ」。たいした物って？「いつもと同じだよ」。最近少しずつHbA1cが上がってくる高齢の患者さんとこんな会話をしたことはありませんか。

65才以上の糖尿病患者さんが全体の60%を越えています。糖尿病には脳血管障害による認知症やアルツハイマー病による認知症が非糖尿病患者の2～4倍頻度が高いと報告されています。認知症になると食事や服薬、運動など日常生活の中の糖尿病療養行動が低下してきます。その結果の高血糖や低血糖を来し、さらに認知症を亢進すると考えられています。これから増え続けることが予測される認知症を併発した糖尿病患者さんへの対応は、早期に認知症を発見することです。

認知症を認めた場合、早期からその対応を行います。対応方法はさまざまです。家族や介護の支援者への対応、薬剤やインスリンを含め治療法の変更などが求められます。糖尿病の認知機能は短期記憶の低下、時間認知低下から始まると言われます。

「今日は何日だったか？」「タバのおかずは何だったの？」さりげなく、患者さんのプライドを傷つけないような質問を行いましょう。

研究会他のお知らせ

◆ 直接事業 ◆ 間接事業 □ その他

◆ 平成24年度 西東京糖尿病療養指導プログラム

申込必要

開催日：平成24年7月8日（日）（開場：9：30）

場 所：北里大学・薬学部[白金キャンパス]（JR「恵比寿駅」より都バス「田87」系統田町駅行「北里研究所前」下車）

参加費：6,000円（昼食代含まず）

申込み：開催間近の為、**当会事務局までお電話（TEL：042-322-7468）でご確認ください。**

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位

各分科会詳細：<教育看護系>第9回 西東京糖尿病教育看護研修会（10：00～17：25）

場所詳細：北里大学・薬学部（白金キャンパス）コンベンションホール

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群看護職>：4単位

<病態栄養系>第9回 西東京病態栄養研修会（9：55～17：25）

場所詳細：北里大学・薬学部（白金キャンパス）1号館1501講義室

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：2単位

★病態栄養専門師認定更新のための研修単位：2点

<薬 剤 系>第9回 西東京薬剤研修会（9：50～17：35）

場所詳細：北里大学・薬学部（白金キャンパス）1号館1202講義室

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：2単位

※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位は<第1群><第2群>どちらか一方のみ認められます。



◆ 第31回 糖尿病連絡会

申込必要

開催日：平成24年7月12日（木）19：30～21：00

場 所：公立昭和病院 2F 大講堂

参加費：500円（お弁当のご用意があります）

申込み：お電話でお申込みください。

TEL：0422-39-7981（担当：アステラス製薬㈱ 北村）

★日本医師会生涯教育講座：1.5単位申請中[かきラムコード：11.13.23]

※詳細は当会ホームページをご覧ください。

◆ 第4回 東京臨床糖尿病運動療法研究会

申込必要

開催日：平成24年7月26日（木）19：00～21：00

場 所：武蔵野公会堂 ホール（JR・京王線「吉祥寺駅」公園口徒歩2分）

参加費：東京臨床糖尿病運動療法研究会・会員無料（非会員：500円）

申込み：同封のお申込み用紙にて、FAXでお申込みください。（締切：7月17日（火））

FAX：042-527-2360（宛先：大塚製薬㈱ 井関）

※申込みが無くても参加できますが、会場準備の都合上、お申込みをお願いします。

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

※詳細は同封の資料をご覧ください。

◆ 第24回 武蔵野糖尿病研究会

申込必要

開催日：平成24年8月4日（土）14：50～16：30

場 所：三鷹産業プラザ 会議室（JR「三鷹駅」南口徒歩7分）

参加費：500円

申込み：同封のお申込み用紙にて、FAXでお申込みください。（締切：7月31日（火））

FAX：042-362-1602（宛先：ノボ ノルディスク ファーマ㈱ 飯塚）

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

※詳細は同封の資料をご覧ください。



『答え』

b.

（問題は1ページにあります。）

『解説』

チアゾリジン薬は、二次無効ではなく、インスリン抵抗性を改善する。



研究会他のお知らせ

◆ 直接事業 ◆ 間接事業 □ その他

◆ 第17回 糖尿病療養担当者のためのセミナー

申込必要

開催日：平成24年9月23日（日）9：50～18：00
 場所：東京経済大学 国分寺キャンパス 2号館（JR・西武線「国分寺駅」南口徒歩12分）
 参加費：5,000円（弁当代含む）
 申込み：同封のお申込み用紙にて、FAXでお申込みください。（締切：9月10日（月））
 FAX：03-5574-9970（宛先：日本イーライリリー(株) 原）

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：5単位
 ★日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位申請中 ※詳細は同封の資料をご覧ください。

教えて！糖尿病Q&A



質問者：匿名[看護師]

透析予防診療チームは専任の医師、専任の看護師または保健師、専任の管理栄養士により構成されることが必要とされていますが、非常勤でもよいでしょうか？



回答者：公立昭和病院 松本 麻里 [看護師]

糖尿病透析予防指導は透析導入の原疾患として最も多い糖尿病腎症（第2期以上）の患者に、外来において医師と看護師又は保健師、管理栄養士等が連携して（チームで）重点的な医学管理を行い、糖尿病患者の透析移行の予防を図ることで月に1回、管理料350点（月1回）が算定されるものです。管理栄養士は非常勤でもよいですが、医師か看護師・保健師のどちらか一方が常勤である必要があります。また、施設において糖尿病教室が実施されていることも求められています。



《広報委員会より》 Q&Aの質問をお寄せ下さい。委員もしくは専門分野の先生に答えてもらいます。
宛先（Q&A受付専用）：qanda@lagoon.ocn.ne.jp お名前（匿名可）、職種をお書き添えください。

事務局からのお知らせ



《平成24年度 西東京糖尿病療養プログラムについて》

●『平成24年度 西東京療養指導プログラム』は、開催間近です。まだ参加費のお支払いがお済みでない方は、至急、お支払いをお願いいたします。（※払込票の支払い期限が切れていてもコンビニエンスストアでの振込みは可能です。）また、お振込みが開催間近になりますと当日までに事務局で入金を確認できないことがありますので、参加当日は払込票のお客控え（払込受領証）をご提示のうえ、会場で受付けをしてください。また、これから参加申込みを希望される場合は、通常の申込み方法では受付けが間に合わない場合がございます。必ず、お電話で申込み方法をお確かめの上、お申込みください。

《当研究会ホームページご利用の方へ》

●先月より新ホームページの運用を開始いたしました。各種申請フォームの不具合が発生しております。新ホームページでお手続きされた方で、10日以上経過しても事務局からの連絡が届かないようでしたら、大変お手数をお掛けいたしますが、eメール、お電話等で、ご一報くださいますようお願い申し上げます。

《平成24年度 西東京糖尿病療養指導士養成講座について》

●『平成24年度 西東京療養指導士養成講座』は、8月1日（水）より当研究会ホームページにて受付けを開始いたします。詳細決定次第、ホームページ及び次回8月号会報にて、ご案内致しますので、いま暫くお待ちください。

《発行元》

NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ山山No.3-802
 TEL：042(322)7468 FAX：042(322)7478
<http://www.nishitokyo-dm.net>
 Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

《編集後記》



西東京臨床糖尿病研究会も25周年記念誌が発行され、また、ホームページがリニューアルされるなど今後も益々の発展が期待されますね。7月にはセミナー等多数開催されます。梅雨入りしジメジメした日が続いていますが、憂鬱な天候に負けず、雨を楽しむ工夫や夏の予定を立てながら、時に雨の日はじっくり勉強し、梅雨明けを心待ちにしたいと思います。（広報委員 永田 美和）